



2024年9月23日
第39回 保団連医療研究フォーラム in 松山

病児保育における

溶連菌感染症トリアージについて

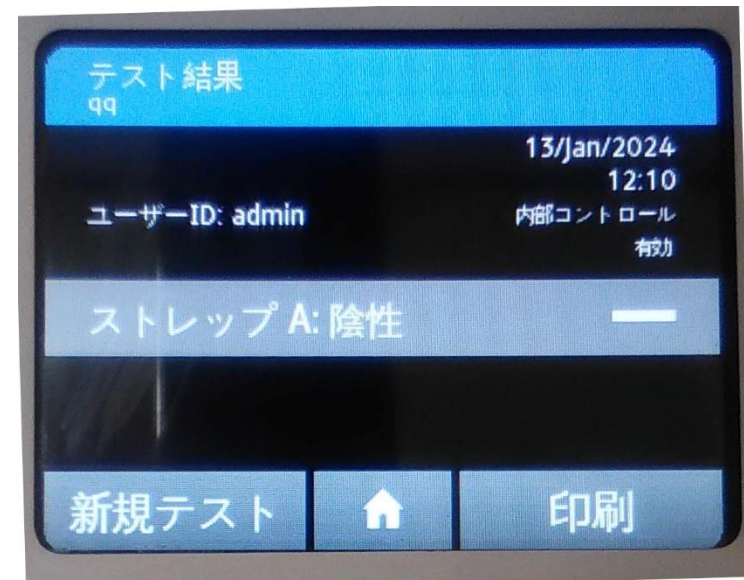
大阪きづがわ医療福祉生協

西成民主診療所

大里光伸

対象と方法

2024年1月から7月までの、当医療機関所轄の病児保育利用時でのトリアージで溶連菌感染症と診断した症例を対象とした。ただし、溶連菌迅速キットのみの陽性例と、他医療機関での診断例は除き22例であった。。
検査機器は、Abbott 社の、「ID NOW™ ストレップ A 2」を用いた。



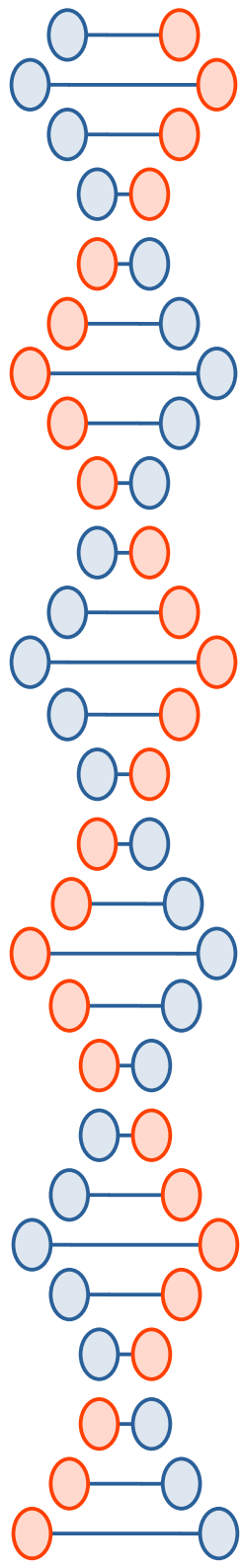
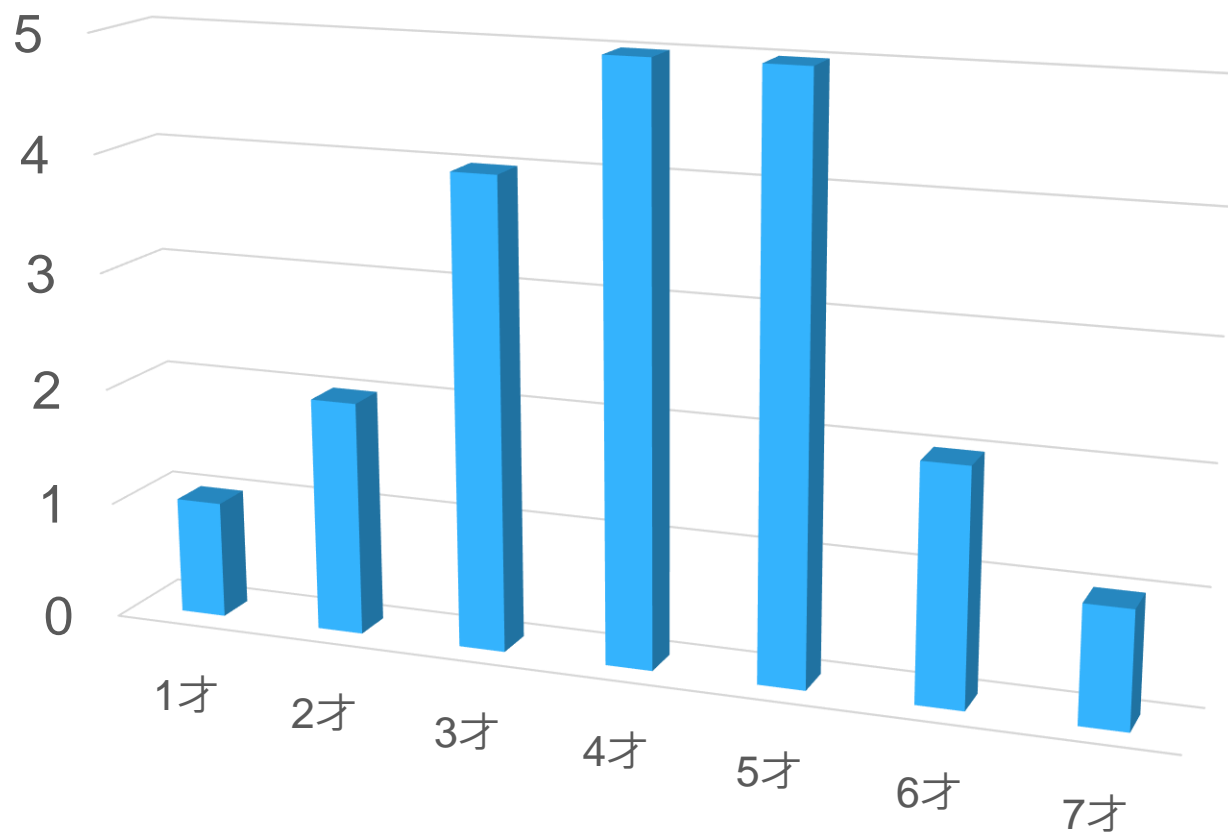
溶連菌迅速キット法とPCR法での判定結果（陽性と陰性例）

結果①

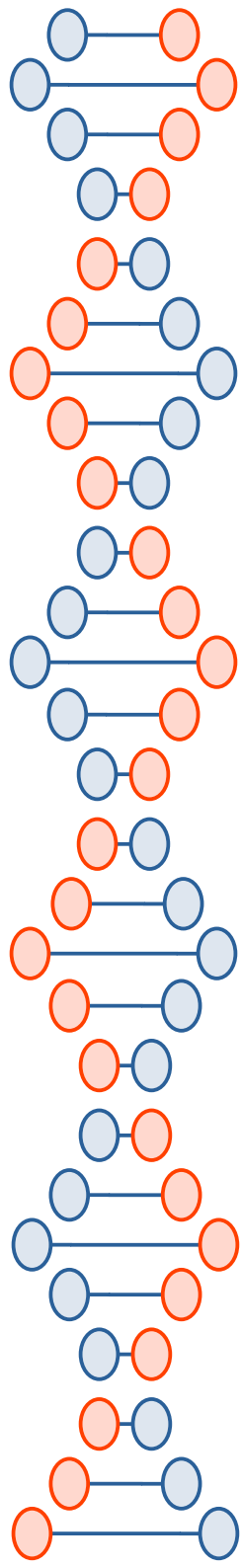
男女別 男児 8例 女児 14例

年齢別分布

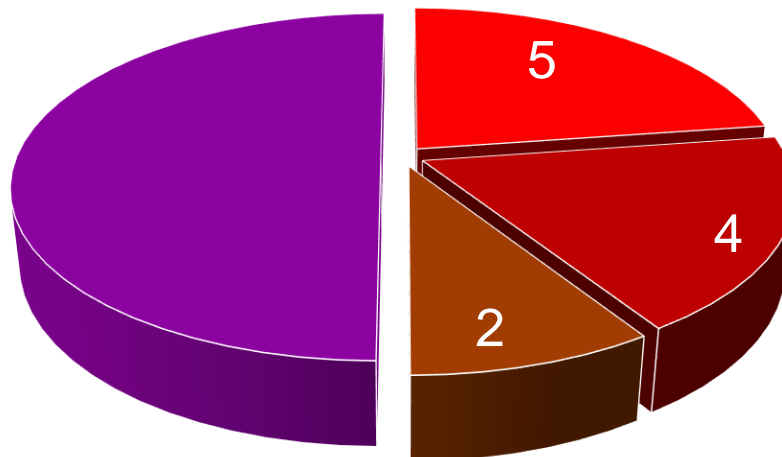
例数



結果②



例数



■ いちご舌 ■ 咽頭・扁桃発赤 ■ 粟粒性発疹

- 家族内感染 3例
- 再発(持続)感染 5例



症例から①

- ・再発、再燃を繰り返した例

4才11ヶ月 男児

2024年1月発熱時に溶連菌PCRが陽性、AMPC 5日投与、陽性所見が続くため、さらに10日投与した。

7月にも、発熱時に溶連菌PCR陽性、AMPC投与するも、解熱せず、クラリスロマイシン(CAM)投与、解熱をみた。



症例から②

- ・家族内感染から

5才4ヶ月 男児

品胎同胞が、発症（その後、急性糸球体腎炎が合併し、入院加療となった。）本人も、数日のインターバルで感染した。腎炎の発症はなく、その後の発熱時にも、溶連菌PCRは陰性だった。

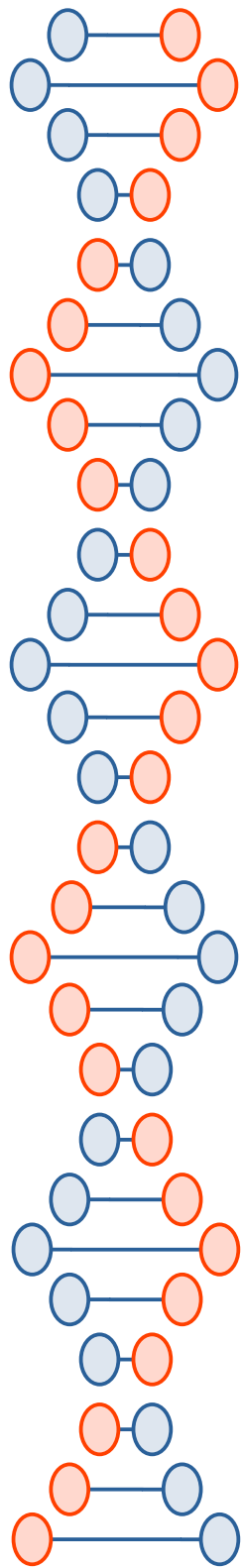
考察①



2024年大阪府感染症サーベイランスより



従来の溶連菌
迅速キット



考察②

Abbott 社パンフレットより

検出感度

各濃度の菌株を作成し各方法を用いて検出を行いました。

GAS ATCC12384 (cfu/mL)	本品	培養法	抗原検出法
1.25×10 ⁵	NT	NT	+
6.25×10 ⁴	NT	NT	-
1.00×10 ⁴	+	+	NT
5.00×10 ³	+	+	NT
1.00×10 ³	+	+	NT
5.00×10 ²	-	-	NT
1.00×10 ²	-	-	NT

NT: Not Tested (申請時データ)

臨床性能評価試験

A群ベータ溶血連鎖球菌 (GAS) の感染が疑われる患者の咽頭ぬぐい液を用い、培養法または抗原検出法を対照として、一致率を検討しました。

		培養法		抗原検出法	
		+	-	+	-
本品	+	74	13 ^{※2}	85	2 ^{※4}
	-	1 ^{※1}	99	2 ^{※3}	98
陽性一致率		98.7% (92.8-100)		97.7% (91.9-99.7)	
陰性一致率		88.4% (81.0-93.7)		98.0% (93.0-99.8)	
全体一致率		92.5% (87.8-95.8)		97.9% (94.6-99.4)	

※1 PCR法で陽性

(製品電子添文より改変)

※2 PCR法10例は陽性、3例は陰性

※3 培養法、PCR法ともに陽性が1例、陰性が1例

※4 培養法陰性でPCR法陽性が1例、培養法PCR法ともに陰性が1例

American Journal of clinical pathology より

Test	Sensitivity, % (95% CI)	Specificity, % (95% CI)	PPV, % (95% CI)	NPV, % (95% CI)
OSOM Strep A	88.5 (77-95)	91 (83-95)	86 (74-93)	93 (85-97)
Alere i Strep A	98 (90-100)	100 (95-100)	100 (92.5-100)	99 (93.8-100)

CI, confidence interval; NPV, negative predictive value; PPV, positive predictive value.

Table Sensitivity, Specificity, Positive Predictive Value, and Negative Predictive Value of the OSOM Strep A and Alere i Molecular Strep Tests Compared With Culture



結論と課題

- 短時間で正確な検査結果を得られることで、余分な抗生物質投与を避け、病児保育のトライアージを行う意味で、今回の溶連菌PCR法は極めて有用性が高い。
- 感染後の合併症リスクとして、急性糸球体腎炎 (AGN) は、依然としてあり、十分な経過観察と保護者への丁寧な説明は必須である。
- 再発再燃する溶連菌感染症には、今回は、AMPC 2クール投与までとし、その後は症状がない場合は経過観察としたが、引き続き治療法の検討の予定である。